



2019 年 11 月 26 日

Audi R8 Decennium 納車式、富士スピードウェイで実施

- アウディ V10 エンジン 10 周年記念限定モデルとして、世界 222 台限定生産。日本国内は 10 台のみ
- アウディ ジャパン代表取締役社長 フィリップ ノアックがオーナーへ限定車証明書を車両とともに授与
- Audi Sport ドライバーのブノア トルレイエがゲストとして参加、R8 のパフォーマンスを語る

アウディ ジャパン株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：フィリップ ノアック）は、フラッグシップスポーツモデル Audi R8 の V10 エンジン搭載モデル、デビュー 10 周年を記念した限定モデル Audi R8 Decennium 納車式を、ご注文いただいたお客様 5 組 8 名をお迎えして、本日富士スピードウェイで行いました。

この納車式では、アウディ ジャパン代表取締役社長 フィリップ ノアックが、オーナーの皆さまへ限定車証明書を車両とともに授与。また、先週末行われた SUPER GT X DTM 特別交流戦に参戦したばかりのレーシングドライバー ブノア トルレイエがゲストとして参加して、Audi R8 のパフォーマンスを語りました。

Decennium (デセニウム) はラテン語に由来する言葉で「10 年」を意味するものです。これは、Audi R8 の V10 エンジン搭載モデルの 10 年にわたる成功を意味します。初代 Audi R8 がデビューしたのは、2006 年のことです。当初は 4.2ℓ エンジンでスタートしましたが、2009 年に 5.2ℓ エンジンを搭載した 5.2 FSI quattro を追加。ここで V10 エンジンのヒストリーが始まりました。

Audi R8 の自然吸気 V10 5.2ℓ エンジンは、Audi の市販モデルとして過去最高の最高出力 620ps を発揮。7 速 S トロニックトランスミッションを組み合わせます。電子制御油圧多板クラッチ式 quattro フルタイム 4 輪駆動システムは、運転状況に応じて駆動トルクを自動で分配し、極限の状況では前輪または後輪のいずれかへ 100% のトルクを伝達することも可能です。また、低負荷時にはエンジンの片バンクを休止させるシリンダー オン デマンド (COD) を採用。アクセルペダルをオフにしたときにはエンジンを駆動系から切り離すコースティングモードとあわせて優れた環境性能も両立します。

今回納車式を行った Audi R8 Decennium は、Audi Sport GmbH の責任のもと、高度なスキルをもった従業員によってそのプロセスの多くは手作業で行われ、世界限定 222 台のみの生産、日本国内の割当はわずか 10 台です。Coupé モデルの R8 V10 performance 5.2 FSI quattro S tronic をベースに、ダイナミックステアリングをはじめ、数々の特別装備を施しています。エクステリアは、デイトナグレーマットエフェクトのボディカラーにハイグロスブラックスタイルパッケージ（グロスブラックのフロントスポイラー、サイドシル、ディフューザー等）を組み合わせます。またフロントフード上のフォーリングスのバッジもブラックとなります。アルミホイールはマットブロンズの 20 インチ、インタークマニホールドも同様にマットブロンズカラーに彩られています。

インテリアでは、Decennium のロゴがセンターコンソールやドアなどに配されています。特にグロスカーボンファイバー仕上げが施されたセンターコンソールの Decennium のロゴは、アウディの特許による部分マット仕上げを特徴として、素材の表面に特殊な粉末を使用して、数千分の 1mm 単位で粗面化処理が施されています。そして電動調整機能付きスポーツシートや、デコラティブパネルグロスカーボン、アルカンターラヘッドライニングなどを装備しています。さらに 550W のアンプと 13 個のスピーカーによる Bang & Olufsen サウンドシステムを備えています。